

埋文コラム

須恵器横瓶の作り方

滝寺窯跡群・大貫窯跡群（上越市）
は8世紀末～9世紀前半の須恵器や土師器の窯で、出土品のうち1,012点が平成22年度に県指定されました。

須恵器には杯・杯蓋などの食膳具、壺・甕・横瓶などの貯蔵具のほか、硯・仏具などがあります。今回はその中から横瓶の製作方法について解説します。写真1右側の3点が横瓶です。壺や甕が縦長の卵形なのに対して、横長の円筒形をした胴部が印象的です。横瓶は酒などの液体を貯蔵するのに用いられました。

横瓶は回転台（ろくろ）を使って製作しますが、胴部の作り方に2通りの方法があります。ひとつは回転台の上に粘土板を置き、そこから粘土紐を巻き上げる方法、もうひとつは回転台の上に直接粘土紐を巻き上げる方法です。前者はコップ状になりますが、後者は上下が開いた筒状になります。ちょうど回転台の上に細長い胴部の片側が接している状態です。なお、後の工程で開いた部分を閉じますが、前者は片側を塞ぐので「片面閉塞」（図左列）、後者は両端を塞ぐので「両面閉塞」（図右列）と呼びます。

次にロクロの回転を利用しながらなでたり叩いたりして中央が膨らんだ形に整えます（写真2）。叩くときには開口部から片手を入れて、器壁を挟んで手拍子をするようにします。ただし、実際に手で叩く訳ではなく、内側の手にはキノコ形の当て具、外側の手には羽子板のような叩き板を持ち、内側からキノコの傘に当たる部分で支えながら外側から叩き締めます。当て具や叩き板には同心円や格子目のような彫刻がされているため、完成した横瓶にはこの痕跡が模様のように残ります（写真3）。

この後、片面閉塞の工程では、台に載せて下の面を叩き出します（図5）。次に粘土の円盤で蓋をします（図6）。この状態でロクロの回転を利用して表面を整えます。そして、ロクロから外して表面を叩いて整えます。再びロクロに載せて口縁部を取り付ける部分を丸く切り抜き、口縁部を取り付けます（図8⑩）。

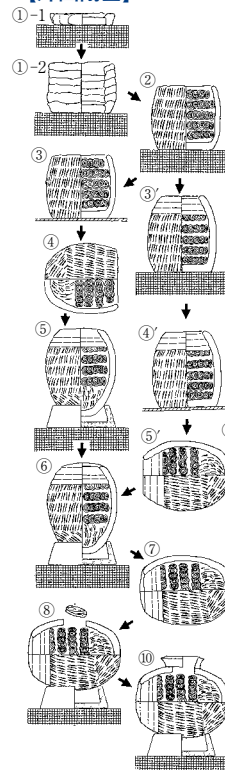
両面閉塞の工程では膨らんだ形になったところでロクロから外し、上端に粘土の円盤をかぶせて蓋をします。再びロクロの回転を利用しながら、なでたり叩いたりして接合部を整えます（図4）。次に、蓋をした面を下にして台に載せ、反対側にも蓋をします（図7）。この後、片面閉塞と同様に口縁部を取り付けます（図9⑪）。

横瓶は8・9世紀には北陸に偏在し、中でも両面閉塞で製作されたものは越中・越後に多く見られます。

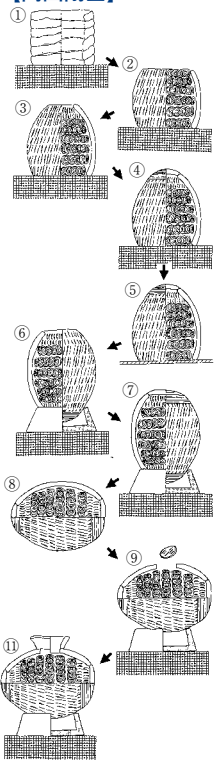
参考資料：春日真実 2001「横瓶の製作方法」『つばとかめのつくり方』北陸古代土器研究会



【片面閉塞】



【両面閉塞】



横瓶の製作方法【春日2001】